

## //REPORT//

# 令和3年度ユネスコスクールオンライン意見交換会

2/15 開催 第7回

「ユネスコスクールから世界とつながろう～ASPnet Global Student Forumに参加して～」



ユネスコスクール事務局では、令和2年度より、ユネスコスクールオンライン意見交換会を1～2か月に1回のペースで実施しています。今年度第7回目は「ユネスコスクールから世界とつながろう～ASPnet Global Student Forumに参加して～」と題して、8名の参加者と対話の場をもちました。

### ■プログラム

開催日時:2022年2月15日(火) 16:00～17:00

時間	内容	備考
16:00	<b>オープニング</b> 趣旨説明	※ACCUより
16:05	<b>事例紹介</b> ASPnet Global Student Forum 参加者2名 ユネスコスクール加盟校 高校生および大学生	
16:25	<b>グループディスカッション</b> 事例紹介を聞き感じたこと等をグループごとに話し合います。	※ACCU各ファシリテーター
16:45	<b>振り返り</b> グループ毎に、ディスカッションで話したことを発表します。	※各グループ 3～4 分程度で発表
17:00	<b>クロージング</b>	※写真撮影

## ■ 事例紹介

ASPnet Global Student Forum は、ユネスコ本部主催で 2021 年 12 月にオンラインで開催され、各国からナショナルコーディネーターの推薦を受けたユネスコスクール加盟校生徒/学生 2 名が「Changemaker」として参加しました。今回は、日本の代表として参加された 2 名(ユネスコスクール加盟校の高校生および大学生)よりご発表いただきました。

---

### 【ユネスコスクール加盟校の高校生】

私はユネスコスクール加盟校の高校に所属しております。本日は私が参加した 12 月 7 日～9 日に行われた ASPnet Global Student Forum について、私が感じたこと、またフォーラム内で話し合った簡単な内容などを共有したいと思います。

その前にこれまで私自身が国際交流に携わった経験を簡単に紹介いたします。私は小学校 6 年生の時にオンラインを通して英語学習を開始しました。その時に出会った素晴らしい先生方のおかげで今でも英語が好きで、その気持ちが英語学習や海外の方との交流に対しての意欲につながっていると思っています。

中学校 2 年生の時には市の青少年海外派遣事業でドイツのパートナーシティに派遣され、実際にドイツの生徒と交流しました。この時が初めて海外に行くという経験だったので、様々な緊張やワクワクした気持ちを持ちながら良い経験をさせてもらいました。中学校 3 年生の時には「国際」という文字に魅力を感じ、本校を受験することを決意しました。

本校に入学した後、市内で行われていたスピーチコンテストに参加しました。また、今年の夏、ACCU の皆さんが実施された日韓の交流事業にも参加しました。そこで様々な国際交流、海外の生徒さんとお話する機会を得られたことに、とても感謝しています。

こののち、ASPnet Global Student Forum への参加を決意しました。

私がフォーラムに参加したきっかけは、とても貴重なお知らせから始まるものでして、試験勉強をしていたところ、学年主任の先生から電話がかかってきて「ユネスコ主催のフォーラムに参加してみないか。提出書類があるから書いたらすぐに送ってほしい」と言われ、とても唐突な出来事で正直あまり状況が理解できていなかったものの、私自身とても興味があり、国際的に大きなイベントだと魅力を感じ、応募しました。

その後フォーラムについて調べてみると、自分が想像していたより数倍も大きなイベントでありましたが、ACCU の方から学年主任にお声をかけていただいたと聞いており、このようなご縁をありがたく思っております。ありがとうございます。

フォーラムについてですが、教育に関する議論が行われました。進化していく時代においてどのような教育制度が効果的であるかというようなことが取り上げられました。私自身、これは質の高い教育や持続可能な開発のための教育(ESD)と深く関係しているのかな、と考えました。私がこの議論で主張したことは、ESD というものが、何か特別な費用をかけて実施するものではなく、単純かつ身近なもの、我々が一度は経験したことがあるものから出てくるアイデアを大切にするような教育ではないのか、ということです。例えばあいさつ指導などです。

私自身このフォーラムに参加する数日前に昇降口に立って自分の友達を含む登校してくる生徒に

積極的なあいさつを呼び掛けました。1 日目に返ってきたあいさつは知り合いからのみだったのですが、3 日目とだんだん日が経つにつれて知らない人、話したことがないような人から小声ではありましたがあいさつが返ってきました。この活動を一週間ほど続けました。その後、最終日にはほとんどの生徒から「聞こえる」あいさつが返ってきました。今回は私が生徒の一人して昇降口に立ってあいさつ運動をしましたが、フォーラムでは教育というものが必ずしも先生たちから提供されるものではなく、トランスフォーマティブ、あるいは変形的な、実態に応じた様々な形の柔軟性のある教育が大切なのかな、という議論がありました。他の海外の生徒の話の話を聞いている中で色々なアイデアが浮かんで来て、とても有意義な時間を感じました。

その他の教育に関する議論として、例えば政治的な意見や生徒が興味のない視点を習うカリキュラムをなくし、選択的にして自主的な学習を促すというような意見や、教育は試験を突破するためのものではなく、何か新しいものを継続して学び続ける機会であるべき、課外的な教育を取り入れ、生徒の成長がもっと期待できるものであるべきといったような意見が、海外の生徒から出ました。

続いての議論の題材は、異文化間の対話、intercultural dialogue というものでした。私は、異なる文化に生きるからこそ偏見というものが必ず生まれてしまうものだと思っています。それをなくすために、異文化間の対話が必要なのかな、と強く思っており、自分の個性や意見の尊重を相手に押しつけるのではなく、まず相手の文化を受け入れ、尊重することが異文化間の対話を成立させる第一歩なのかなと思います。「インターナショナル」や「ダイバーシティ」といった言葉を最近よく耳にしますが、果たして自分は本当にこのような言葉の意味を理解して相手のことを尊重しているのか、本当に異文化を尊重できているのか、偏見なしに相手の国の本質を見ているのか、という疑問を持った時間でした。

異なる文化の世界に生きるからこそ偏見というのは絶対に生まれてしまうわけで、例えばある国の名前が出たときに悪いニュースばかり聞いていると、どうしても偏見なくして試みるのが難しかったりします。そういったことをなくすために、文化は違っても偏見をなくし、相手の本質を見ることが大切であり、言葉だけでなく行動に移すことが必要なのではないかという内容の議論でした。

また、海外の生徒と話しているときに、頭に浮かぶのは日本のことわざや日本の言葉ばかりでした。例えば「みんなちがってみんないい」というような、私自身が小学校の時から聞いてきているような言葉が浮かんで来て、議論の途中で日本にはこのような言葉があるんだよ、ということを英語で伝えたり、こういう考え方って大事だよ、というようなことを発言したりしました。国際化が進む世界の中で、自国、日本についても知ることから異文化間の対話というものも始まるのかな、と思いました。

参加する前と参加した後で何か成長したかと聞かれると、正直自分でもしっかり答える自信はありません。ただ、私がこのフォーラムに応募するにあたり、このコロナ禍で国際交流というのが非常に難しくなり、オンラインでできるといってもその機会がたくさんあるわけでもない中、せっかく私のところに来た話だったので是非海外の方とコミュニケーションを取りたいと思っていたのですが、今回の参加で海外の方とカジュアルなトークだけではなく、一歩踏み込んだ、問題解決に対してのお話ができ、非常に貴重な経験ができたと考えています。また、フォーラムと聞き、少しフォーマルな、硬い印象を受けたのですが、いざ話してみると同年代ということもあり、似たような意見や考え方、学生ならではの視点を持っていることを知り、とても安心したとともに共感し、温かみのある思いがしました。

フォーラムで知り合った学生たちとは今も SNS を通じて時々やり取りをしています。このフォーラムを通じて普段絶対出会えない考え方や今後のコミュニケーションの際に参考にしたいと思えるものにも出会えました。こういった生の海外の方の意見を知っておくと、意識せずに相手を傷つけてしまうことも防げるかと思えます。

是非皆さんにもこのような体験をしてほしいと強く思っています。オンラインだからこそその距離感もありましたが、筆談やチャット機能を使うよりお互いの顔を見て話す方が、ずっと相手の心情が見えて安心してしっかり意味のある会話ができるのかなということも示してくれたと思います。

「文字は剣よりも強し」と言って、文字だけではわからないこともあるので不意に相手のことを傷つけてしまうこともあると思いますが、実際にオンラインであったとしても相手の顔を見て対話をするということとはどれほど大切であるのかということを実感しました。

コロナ禍で海外に行くことが非常に困難な現在の状況ですが、国際的な場を借りて海外の生徒とコミュニケーションを図ることができてとても貴重な経験だと感じました。この経験を必ず今後に役立てたいと思っています。

#### 【ユネスコスクール加盟校の大学生】

私はユネスコスクール加盟校の大学に所属しております。まずは今回このような発表の場を設けていただいたこと、大変嬉しく思っております。

今回は私が SDGs に興味を持ったきっかけや ASPnet Global Student Forum に参加しようと思った理由などについてお話します。

私が SDGs という単語を初めて聞いたのは高校入試の時でした。小論文の参考資料として提示された映像が SDGs についての資料でした。当時の私は SDGs に 17 の目標があることやその目標に向けて世界各国の方があらゆる取り組みをしているということを知らず、そういうことをしているのか、と漠然と受け取っていました。

この映像で知ったのが、発展途上国で使われている簡易トイレについてでした。6 番目の「安全な水とトイレを世界中に」というターゲットと、10 番目の「人や国の不平等をなくそう」というターゲットについて知ることができました。

高校入学後、私は SGH の研究で「貧困地域の教育格差」について研究していました。SGH とはスーパー・グローバル・ハイスクールといって、自分で課題を設定してそこから研究を行う活動をしている学校です。その研究の中で私が感じたことは、自分が日本で入手できる資料には限界があること、そしてもっと多くの意見を自分の中に取り入れる必要があるということでした。もちろんその論文や学説には教育格差についての現状がすべて記されているわけではありません。そして論文や学説も入手するには限界があります。また、自分の海外に対する知識や情報も偏った情報ばかりではないかと感じました。

そこで私が考えたことは直接話を聞くことが大切なのではないか、ということでした。高校生の際に研修旅行という形で実際にタイに出向き、現地のスラム街などを見学させていただきましたが、やはり日本人としての考え方だけではなく、世界各国の考え方に触れたいと思うようになりました。

このことから、大学生になって参加したいと考えたのが今回の ASPnet Global Student Forum です。このフォーラムは、世界各国のユネスコスクールに所属する生徒や若者が集い、持続可能な開発のための行動について議論を行う場です。このフォーラムの具体的な活動内容について説明します。

フォーラムは 3 日間、今回はオンラインでの開催となりました。最初の 2 日間はグループでの活動と全体での意見交換が行われました。私は本学で ESD について学習していることもあり、このグループの中の ESD のグループに参加しました。このグループの議論では、特に高等教育のあり方などについて話し合いが行われました。3 日目はオープンな会議が行われました。生徒や若者、学校の教職員の方、世界各国の教育省の官僚の方などが参加し、意見交換が行われました。

次に私がこのフォーラムに参加した理由について話します。やはり一番大きな理由は海外の方の意見を直接聞くことができるという理由でした。そうすることで海外からの視点にも着目することができます。また、英語でのディスカッションもできると考えました。私の中では、物事を考える時には多角的な観点というのがとても重要になると考えています。その多角的な視点を育成することができるのではないかと思います。

次に実際に行われた議論についてです。まず、「changemaker になるとはどういう意味か」という質問が投げかけられました。この質問に対して出た意見が「言葉だけでなく、行動すること」「変化を生み出す意欲をもつこと」「議論だけでなく、私たち自身で何かをすること」「まずは自分を信じること」「お互いに協力すること」といったものです。

次に、「高校卒業後の教育の好ましくない点や改善する方法には何があるか」という質問がありました。この質問に対しては「知識が不足しているにもかかわらず、ハイレベルなことを要求される」「自分の専門以外のことについて知る機会が少ない」といった意見が出ました。

このフォーラムの中で私が印象に残った言葉があります。それは”Education is the most powerful weapon which you can use to change the world.”、「教育は世界を変えるために使うことのできる最も強力な武器である」という言葉です。この言葉から私は教育がいかに重要視されているのか、そして教育が今後どれだけ期待されているのかということを感じ取ることができました。

また、自分の考えにも変化がありました。フォーラムに参加する前は、教育は国際問題解決の基盤になるという自分の考えに自信が持てなかったり、教育よりもっといい方法があるのではないかという風に考えたりしていました。そして世界問題はとても規模の大きなものなので、行動に移したりすることや自分にできることはとても少ないのではないかという風に考えていました。

ですが、このフォーラムに参加した後は、まずは自分が自信を持つこと、教育も立派な解決方法であるということ、そして自分ができるところから始めていくことが重要であるということを実感しました。

現在の自分の考えと今後の教育について必要だと思うことについて話します。まず、教育において必要だと思うことが 2 つあります。1 つ目が他者と協力し、交流する機会を設けることです。そうすることで自分と他者の意見を交流させることができ、自分の中に様々な意見を取り入れることができると思いました。次に、生徒が積極的に行動できる環境づくりです。実際に、自分が先ほどお話しした SGH の研究というのは、生徒自身が課題について考える場面を多く設けてくれたので自分が教

育格差に興味を持つことができたと思っています。この問題解決に向けて最も大切になることは、「他者との協力の中でできることを考える」ということです。世界について考える時、やはり自分一人の力ではどうしてもできないことがあると思います。しかしながら他者と協力して共に成し遂げていくことでできるが増えると思います。まずは自分にできること、そして一人で無理しないことが大切であると思いました。そして自分が最も大切であると考えている教育に関するグループで議論できたこともとても嬉しかったです。

## ■ ディスカッションを通して

事例紹介を受け、参加者同士の対話の場が持たれました。以下、話し合われた主な内容です。

- ・ 発表を受け、今回の国際会議で学んだことの内容を深めたうえで、本日の参加者がどのように教育に携わっているかを知ることができ、良いディスカッションができた。
- ・ 国際会議やフォーラムがある中で、なかなか若者の参加者が増えないという課題が見つかったので、自分自身も皆さんとも考えていきたいと思った。
- ・ 発表を受け、持続可能性に向けての変容に関し非常に強い主体性と行動への意欲があり、素晴らしいと感じた。
- ・ 今後のフォローアップ、実際にどのように行動につなげていくかのアクションプランについて、コロナ禍でなかなか難しいが、今できることを考え、今回つながった海外のユネスコスクールの青年たちとも一緒にできるアクションプランを引き続き立てていこうという積極的な意向について伺うことができた。
- ・ changemaker について、何を期待されているのか、changemaker に関してのフォーラムのお題はだれが提示するのか、ということについて、青年たちがグループで話し合い、その中で自発的に出てくるテーマが大事なのではないかと、そのようなことが changemaker の役割なのではないかと説明いただいた。この共創的なプロセスをグループディスカッションで体験することができ、新たな勇気を与えられた。

※月に一度、ユネスコスクールオンライン意見交換会を開催しております。お申込み方法などの詳細は、[ユネスコスクール公式ウェブサイト](#)内「最新情報」、[ユネスコスクール公式 Facebook](#) にも掲載しております。ぜひご参加ください！

